

1 地域ケア会議全体像

会議	地域ケア個別会議	地域ケア課題整理会議	地域ケア推進会議
機能	何らかの課題を抱える高齢者を支援し、課題を解決するために様々な専門職と一緒に自立支援・重症化予防について検討。個別事例の課題解決の蓄積により地域の課題を把握することも期待される。	地域ケア個別会議で把握された地域の課題について整理。課題を解決するために既存のサービスや資源の有効活用や、新たな資源の開発等について検討。	地域ケア課題整理会議で検討した結果、新たな事業化や施策化を行う必要がある場合に検討を進め、介護保険事業計画等に位置づけるなど政策へ結び付ける。
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター職員 ・アドバイザー(医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士・理学療法士) ・民生委員 ・生活支援コーディネーター ・本庄市担当課職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター職員 ・生活支援コーディネーター(第1層・第2層) ・第2層協議体 ・課題整理会議の検討に必要な専門職 ・本庄市担当職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター運営協議会委員 ・地域包括支援センター職員 ・本庄市担当課職員
開催頻度	各圏域ごとに4月～12月まで毎月1回	各圏域ごとに年1回	市全体で年1回
主催	地域包括支援センター	地域包括支援センター	市

2 令和3年度地域ケア個別会議の実施報告

	回数	事例数
西	9	17
東	9	17
南	8	13
児玉	9	14
合計	35	61

3 地域ケア課題整理会議の実施報告

	地域の課題
西	【見守り・地域とのつながり】
	【外出支援・つきそいボランティア】
	【趣味・生きがいづくり】
	【認知症】
	【災害時の支援】
	【はにぼん筋力アップトレーニング教室】
	【専門職からの支援】
	【自立支援のための住民への啓発】
東	【集いの場・外出する場所について】
	【外出支援について】
	【ボランティアについて】
	【専門職による支援について】
南	【地域のコミュニティや近隣住民との繋がりが希薄になっていることについて】
	【移動を支援する資源が不足していることについて】
児玉	【Withコロナの取り組みについて】
	【ボランティアの活用】
	【つながり、相談、独居・高齢世帯】

4 令和3年度地域ケア推進会議の実施報告

地域ケア課題整理会議で把握された12の課題についての主な対応・取組については以下のとおりです。

課題	主な対応・取組
【見守り・地域とのつながり】	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が求めた時に高齢者の情報の提供を継続して行っています。
【集いの場・外出する場所について】	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録の周知を今後も行っていきます。 ・総合相談で孤立している高齢者の情報を包括と共有しアプローチできるよう検討していきます。
【外出支援について・移動支援の資源不足について・外出支援のための付き添いボランティア】	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド交通に関する情報を今後も、関係各課及び協議体と共有するとともに、移動支援事業も協力して行っています。 ・市と地域包括支援センターとで共有する生活支援サポーター登録情報の共有を継続して行っています。
【ボランティアについて・ボランティアの活用について】	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生活支援サポーターを育成し、地域包括支援センターへ受講者情報の共有をしていきます。 ・認知症サポーターが認知症の方と関わりを持つ場を今後も提供していきます。 ・ボランティア登録者の募集の周知を継続して行っています。 ・地域支援の立ち上げ支援についても継続して行っています。 ・地域支援の核となる住民の育成も継続して行っています。 ・生活支援サポーター養成講座についても、継続して実施していきます。 ・幼少期からボランティア体験する機会や、ボランティアへ興味関心を持ってもらう機会についても、継続して作っていきます。 ・インターネット上でのボランティア掲示板等により、幅広い年代にボランティアを知ってもらい、参加してもらう機会を作っていきます。
【専門職による支援について・専門職からの支援】	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネから専門職へ気軽に相談できる場について検討します。 ・出前講座の体力測定に理学療法士の派遣について検討します。 ・専門職が自宅に訪問して運動機能を評価し、介護サービスにつなげられるような仕組みを検討します。
【地域のコミュニティや近隣住民との繋がりが希薄になっていることについて・つながり、相談、独居、高齢世帯】	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のための便利ガイドに災害時の避難場所の掲載、避難行動要支援者支援制度の掲載について検討します。 ・介護施設等にサロンの開催や、地域住民向けの相談窓口の設置といった、専門職の活用について検討します。 ・オンラインの相談窓口について検討します。
【Withコロナの取り組み】	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職が地域サロン等へ出向き指導等出来る仕組みや出前講座のメニューを増やすことを検討します。 ・オンライン活用に向けたタブレットの操作説明会等の取り組みを、今後も行っていきます。 ・サロン主催者や参加者に向け、休止に関するリスクの説明を今後も行っていきます。
【趣味・生きがいづくり】	<ul style="list-style-type: none"> ・関係課へ情報提供させていただきました。
【認知症】	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターに社協で行っている「ほんじょう助け合いサービス」の周知を行い、活動希望者の情報を市と社協で共有するよう検討します。
【災害時の支援】	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者の医療重要度の把握を検討します。 ・避難行動要支援者の対象を把握するために、サービス事業所と、市との連携を検討します。
【はにぼん筋力アップトレーニング教室】	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者へのアンケートの中に、同行支援ができるかどうかどうかの内容を入れることについて検討します。 ・今後もフォローが必要な人を把握し、包括へ繋いでいきます。 ・筋トレサポーター養成講座やサロン代表者の集まり等で、参加者同士で見守りし合うことについての必要性や、支援が必要な人について包括や市へ連絡するよう啓発していきます。
【自立支援のための住民への啓発】	<ul style="list-style-type: none"> ・本庄市の介護認定者の推移や認知症発症率などの現状の公表と、関係者間での共有を行い、多職種で介護予防と重度化予防についての啓発をを検討します。

5 令和2年度の課題に対する令和3年度の地域包括支援センター及び生活支援協議体の活動報告について

	包括名	地域課題	課題に対する活動(包括及び協議体)
包括別	本庄西地域包括支援センター	【認知症】 ・認知症サポーター養成講座の周知を行い、受講者を増やし、認知症の人への理解者・見守りをしてくれる人を増やす。 ・認知症サポーターについての広報をする。 ・子供・若い世代へのサポーター養成講座を増やす。 ・医療職・専門職のキャラバンメイトやサポーターを増やす。 ・キャラバンメイトが活動できる場を増やす。 ・認知症の理解を深めて、緩やかな見守りをする。	・西包括だよりR3.5月号にて、認知症サポーター養成講座の周知を行った。 ・社協だよりR4.3.15号にて、認知症サポーターの周知を行った。 ・認知症サポーター養成講座を、本庄西小・旭小・本庄西中及び(株)渋沢にて行った。 ・認知症サポーター養成講座を、キャラバンメイトとともに開催した。(協力いただいたキャラバン・メイト3人、のべ8回)
		【避難行動要支援者避難支援制度】 ・福祉避難所の周知をする。 ・防災マップの見方や災害時の情報収集などを学ぶ出前講座について周知する。	・本庄ケアマネ会議にて、避難行動要支援者避難支援制度及び福祉避難所について研修を行った。
		【地域の見守り】 ・相談窓口の周知(HP・包括だよりなど)を行う。 ・見守りを要する高齢者について、ケアマネと自治会・民生委員との連携で、チームとして情報共有を行い見守り体制の構築を進める。 ・地域の人に関心を持ち、支え合う意識を高めるための取り組みを行う。 ・地域住民同士が見守り合う関係づくりや、関わっている人たちが連携し、情報共有できる関係づくりをする。	・社協ホームページ・西包括だよりにて周知を行った。 ・個別支援を通して、独居やリスクのある方への見守りが必要な方に対しては、民生委員やインフォーマルな支援者と情報共有を図りつつ支援を行った。 ・まごころさぼーと活動報告はコロナ禍のため中止としているが、サポーター間での見守りや支え合いに関する情報共有は行っている。
		【集いの場】(本人) ・地域の助け合い活動(まごころさぼーと)について、他の地域や住民に周知をする。	・牧西自治会において住民の支え合い活動の立ち上げ支援を行った。(まごの手サポート牧西)また、出前サロンの活動地域を市内全域とした。
	本庄東地域包括支援センター	【集いの場・外出する場所について】 ・サロン会場の手すり/段差解消 ・精神疾患の方の患者会/家族会等の場がない。 ・地域住民の特性でサロンや筋トレ教室が立ち上がらない。	・地域(久々宇)の自治会に相談し、出入り口付近に置き型手すり/台が設置された。 ・市内/近隣地域の病院や関係機関に問い合わせ情報収集と見える化を図り、必要時は家族や専門職へ情報共有を図った。 ・市と筋トレサポーター養成講座受講者の情報共有を行った。
		【外出支援について】 ・難聴のある方ははにぼん号の予約が難しい。 ・障害のある方が外出できるような支援体制が少ない。 ・地域に活動の場が無く、活動を実施している会場までの移動手段が乏しい。	・庁内でも確認頂き、電話予約が難しい場合、FAXでも予約可能と返答頂いたため、適宜情報周知を行った。 ・朝日町をモデル地区に介護事業所のご厚意により、自宅からスーパーまでの送迎支援を実施。今後定期実施や対象者/送迎場所について検討予定。
		【ボランティアについて】 ・サロンへの付き添いボランティアの育成。	・生活支援サポーター養成講座受講者の情報を市から共有頂き、生活支援体制整備事業の取り組みを周知し、今後地域活動に参加頂けるよう働きかけた。

	包括名	地域課題	課題に対する活動(包括及び協議体)
包括別	本庄南地域包括支援センター	<p>【地域とのつながり・交流について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康維持や地域交流の為に自宅周辺を散歩することを提案する。 高齢者の見守り強化の為、高齢者が安心して生活できる仕組みに関する情報を提供する。 地域包括・ケアマネと自治会・民生委員等との連携による活動を通じて、チームとして情報共有・見守り等を行う。情報を蓄積し、見守り体制の構築に役立てる。 訪問型サロンについて情報提供。 自治会内の活動を活用して、見守りや、困りごとのサポート。 民生委員や近隣住民・地域住民へ高齢者の安否を機にかけてもらうための協力を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談等では、はにトレ体操等を活用したセルフマネジメントの重要性を周知した。 郵便局や民間事業者が実施している見守りサービスの紹介や本庄市の緊急通報システム、緊急医療情報キットの周知をした。 市内及び圏域のケアマネジャー等とは研修会等を通じて連携を図り、民生委員の定例会にも参加できる体制を構築している。 サロンに参加していない高齢者に社会資源として情報提供実施。 自治会独自で見守りに取り組んでいる地域と連携し、情報共有出来る体制づくりについて検討。 単身高齢者や高齢世帯についての総合相談の祭、相談者が民生委員や近隣住民だった場合は、協力を呼び掛けている。
		<p>【地域の担い手について】</p> <ul style="list-style-type: none"> サポーター養成講座受講者の中でボランティア登録をした方への、協力要請をする。 自治会内の会議等に包括が参加し、地域住民についての情報共有や、意見交換の場として活用する。 包括が関係機関や地域住民を繋ぐ、情報発信の中継地点となる事で、地域間での様々な取組を円滑に進める役割を担う。 他地域の協議体や生活支援コーディネーターと情報共有を図り、地域の取り組みを立ち上げる際の参考にする。 ボランティアの確保に関して、社会福祉協議会に登録されているボランティアや自治会を通じての募集、SNSを活用しての募集、学生といった若い世代に学校を介して呼び掛け、等の募集手段を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動機会の体制づくりや提供を図った。 地域サロン、民生委員定例会、地域住民が参加する場に参加する体制を構築している。 ケアマネジャーや介護サービス事業所との連絡会議及び研修会の開催や、在宅医療介護連携事業の研修会に参加することで専門性の向上や連携を図った。 2層SC同士の打ち合わせや通常時の電話連絡等、他地域のコーディネーターと話せるタイミングではそれぞれの取り組みについて情報交換している。 ボランティアセンターに登録されている地域住民について、ホームページで確認したり、地域住民に体制整備事業の周知を行いボランティア参加を促したりしている。
		<p>【移動手段について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護教室を充実させ、運動機能の維持を図る。 デマンドバスを介護者と利用し、使い方を確認し安全に利用できるよう配慮する。 独居高齢者や高齢者のみの世帯を地域で把握。 	<ul style="list-style-type: none"> 口腔や食事の健康維持向上を意識した介護者教室を企画した。 総合相談等で、リーフレット等を活用して、はにぼん号の利用方法等の周知を図った。 総合相談等では訪問を基本とした実態把握を図った。

包括名	地域課題	課題に対する活動(包括及び協議体)
包括別 児玉地域包括支援センター	<p>【地域とのつながり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全なサロン開催に向け、新型コロナウイルスについての最新情報を収集し、チラシ等による周知を図る。 サロン等に出向き、高齢者による活躍・活動についての情報収集をする。 地域でできる活動、新たなコミュニティの提案(子供の登下校の見守り、地域の掃除、文通等できる活動を一緒に考えていく。) 	<ul style="list-style-type: none"> 筋トレ教室やオレンジカフェ、ウェルカフェなどの際に新型コロナウイルス感染症予防、感染拡大対策の話をする。 緊急事態宣言の発令等により、サロン活動も自粛傾向であったが再開できた所も増えてきたため、ささえ愛ちむこだま(第2層生活支援体制整備協議体)の構成員と第1層・第2層生活支援コーディネーターと協働で児玉地域の各サロンに出向き情報収集を開始している。 多世代交流できる機会仕組みについて、ささえ愛ちむこだまの構成員と第1層・第2層生活支援コーディネーターが協働し、多世代交流の場として畑サロンの開催を検討。児玉地域の強みである児玉白楊高校の農場を活用しながら学生と地域住民が交流できるよう学校側と協議を行い、来年5月の開催に向け調整を行っている。
	<p>【認知症・若年性認知症の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の理解のための認知症サポーター養成講座を周知する。 QRコード等市の政策を一覧にする等、地域住民等へ周知する。 サロン等で認知症高齢者の活躍の場等の取組を行っていきけるよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校・中学校等で例年通り認知症サポーター養成講座を開催。地域のサロンは自粛傾向のため各サロンでの開催は難しい状況であるが、各サロンのリーダーさんに向け、2月に認知症サポーター養成講座を開催する予定となっている。 認知症の周知について、令和3年9月13日～18日にかけて本庄市役所のホールや図書館、早稲田リサーチパークにて認知症普及・啓発イベントを開催した。 新たな相談窓口として本庄市内のグループホームに相談窓口の設置を検討していただいている。 オレンジカフェ内で多世代交流の機会を検討(令和4年3月2日に児玉保育園の園児と交流を予定している。)
	<p>【食事・栄養管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の栄養士と協力し栄養相談会の開催や食について学ぶ機会(地域住民や専門職等)を作る。栄養管理シートの作成も検討。 民間の配食業者等をまとめ、独居や高齢者世帯等に配布。 移動支援、移動販売のより一層の充実を図り、食材の確保等ができるように努める。 孤食を防ぐことや世代間交流の場となるよう地域食堂の開催を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月第3金曜日にウェルシア本庄児玉南店にて4月と1月に管理栄養士さんを講師にお招きし、栄養相談と講座を実施。(4月:骨強度チェックと栄養相談・1月:免疫力を高める食事) 新鮮な食材確保のため、移動支援について、ほんじょうまるごと応援団(第1層生活支援体制整備事業協議体)にて、介護事業所の福祉車両の空き時間の活用に向けて交渉を行っている。 食料品の確保のため、移動販売について、ささえ愛ちむこだまの構成員と第1層・第2層生活支援コーディネーターと協働で児玉地域の各サロンに出向き情報収集を開始している。